

早来北進産業廃棄物最終処分場建設の問題について考える 8回目

令和4年5月13日付けの北海道新聞に「平成30年北海道胆振東部地震」の地滑り斜面についての調査結果が掲載されました。

この調査を実施した北海道大学大学院農学研究院の桂真也助教に話を伺いました。

平成30年北海道胆振東部地震に伴う斜面崩落について

■地滑りの斜面は、水分飽和で常に崩壊危機にあった

地滑りの原因は、普通雨で崩れるのが一番多く、地震で崩れる時は、かなり特殊なことが起こるらしいというのが今回の地震で特に顕著だと思われる。

その1つが凄く勾配が緩い所でも崩れていて、それが凄く遠くまで流れていく。しかし、なぜその様なことが起こったか、相当な議論がなされている所であるが、1つ言われているのが、火山灰が9000年かけて風化していて、指でつまんでもすぐに潰れてしまうぐらいである。

サンプルを採取した時は、あまり雨の影響がない状況であるが、常に湿っていてジクジクの状態である。

これらの状況から、9000年の間に火山灰が非常に水の抜けにくい材料になってしまったようである。

■発災当初は、前日の台風の降雨による影響と言われていたが、大半は、火山灰の風化による影響というメカニズムが確認された

元々火山灰は、隙間が多い物であるが風化して凄く潰れやすくなり、隙間が多い火山灰は沢山の水を含める状況になっていき、その隙間もほとんどが水で埋まってしまった。

研究者の中でも前日の台風による雨の影響で土砂災害が発生したという話が多かったが、今回の話のように雨に関係なく結果は同じであったということで、このような発表をさせてもらった。

■土砂災害警戒区域について

今回の地震では、警戒区域の規定基準に満たない勾配の場所での地滑りが多く発生しており、計算を超える距離を土砂が動いている。

今の基準は、降雨で発生した事例を集めて基準を作っているため、普通の地震で崩れるのであれば、斜面の中に水分が入っている訳がない。なので、雨の時より土砂は動かないはずだが、今回の地震は崩れ方が特殊で、今まで土砂災害対策としてやってきたことをそのまま行ってもなかなか対応できないだろうというのは、正直なところである。

※桂真也助教には、9月10日(土)に開催される「あびら環境フォーラム」の基調講演でも講話をお願いする予定です。詳細は下記をご覧ください。

あびら環境フォーラム ～廃棄物からみた持続可能な社会・今私たちに出来る事は～

開催日時 9月10日(土) 13時30分～

開催場所 追分公民館

定員 先着150名(事前申込制)

内容 基調講演、パネルディスカッション

申込方法 右記二次元バーコードから申込フォームにアクセスしていただくか、
税務住民課住民生活グループに電話でご連絡ください。



この記事に関する問合せ 税務住民課住民生活グループ ☎@2940